

令和 6 年 度

福島県青少年健全育成審議会（第 2 回部会）

議 事 録

令和 7 年 1 月 2 4 日（金）開催

令和6年度福島県青少年健全育成審議会（第2回部会）議事録

開催日時：令和7年1月24日（金）10時58分～11時53分

開催場所：チェンバ大町3階 多目的ホール

出席委員：10名

阿部泰宏、國岡美和、齊藤隆之、酒巻祐亮、佐藤達哉、高荒由幾、中田和宏
七海圭子、吉田江理子、渡部純

（名簿順、敬称略）

※ 大場盛子委員、山田真由実委員は、所用により欠席

事務局：3名

こども・青少年政策課長 斎藤康徳

主任主査 大内保史

主事 正直義幸

審議内容 青少年の健全な育成を図る上で有益な書籍の推奨について

1 開会（10時58分）

2 定足数の確認

- 事務局より、委員数12名に対して10名の出席があり、定足数（過半数：7名以上）を充足していることを報告した。

3 議事

（1）議長の選出

- 福島県青少年健全育成審議会規則第4条第6項の規定により、これ以後、齊藤隆之部会長が議長となり審議を執り行う。

（2）議事録署名人の指名

- 議長からの指名により、國岡美和委員と七海圭子委員の2名を議事録署名人に選出した。

（3）青少年の健全な育成を図る上で有益な書籍の推奨について

- 事務局（大内主任主査）より、採決方法（議長を除いた出席委員の過半数で可決）について説明。

○「パパはたいちょうさん わたしはガイドさん」

議長（齊藤隆之部会長）

- ・ 「パパはたいちょうさん わたしはガイドさん」について、審議いたします。
委員の皆様、御意見をお願いいたします。

高荒由幾委員

- ・ 実は推奨するかしないかとても迷いました。一読したときに、どう受け取ったらいいいのか全く分からなかったためです。
- ・ 日本語のリズムが非常に悪いところも絵本として悩んだところで、インターネットでは原文を確認できずスペイン語のリズムを確認できなかったのですが、その点もマインスポイントになったところでした。
ただ、絵がすばらしいという点で、推奨とさせていただきます。

阿部泰宏委員

- ・ 視覚障害者の方にとって街ってというのは、危険な動物が潜むようなジャングルだったりとか、横断歩道が危険な大河の様であるとか、そういったことを感じながら日々過ごしているというところが見える側からすれば非常に新鮮で、想像力を育む本にはなっていると感じ、推奨としました。

議長

- ・ 私も悩みましたが、受け手によって結構いろんな受け取り方をされると思います。
学校であれば先生だったり、御家庭であれば御家族であったりと一緒に見ていただくの良い本だと思って読ませていただきました。
- ・ それでは、「パパはたいちょうさん わたしはガイドさん」については、書評から出席委員の全員が推奨相当としていることから推奨としてよろしいでしょうか。

<異議なし>

- ・ それでは、「パパはたいちょうさん わたしはガイドさん」については、推奨いたします。
- ・ 続いて推奨対象についてですが、出席委員の書評を参考として、推奨対象を「小学生の低学年」としてはいかがでしょうか。

<異議なし>

- ・ 御異議がないようですので、推奨対象を「小学生の低学年」といたします。

○「くよくよしてもしかたがない！」

議長

- ・ 次に「くよくよしてもしかたがない！」について、審議します。
委員の皆様、何が意見等ございませんか。

中田和宏委員

- ・ 本を読んで一番引っ掛かったところが、男性は外で働いて、女性は家庭で家事育児をするということです。
- ・ この現代で、ちょっと問題になりそうなどころをはらんでいるので、皆さんの意見を伺いたいと考え、非推奨としました。

渡部純委員

- ・ 非推奨ということで、民友の中田次長と私は、同じ業界の者として同じような意見です。
- ・ この作品自体を否定するものではなく、作品が出た当時と今の状況が異なり、特に今は人権の問題が注目される中で、あえて問題提起や誤解を招くのではと引っ掛かったので、あえて推奨しなくてもいいのではと思いました。

議長

- ・ 国でも「家事は女の人」ということなどに関して色々と言われるようになっていましてけれども、そこに気付くような本なのかなと思いながら読んでいました。ただ、報道機関の方々から非推奨という形で問題提起頂いたというところで、やはり現在社会において取扱いが難しい部分だと考えました。
- ・ 皆様の御意見を伺いながら、この本に関しては、慎重に判断した方が良いかと思えます。他の委員の御発言をお願いします。

七海圭子委員

- ・ 性別による役割分担の話で、夫にも読ませて少し議論ができ、すんなり読めたというところではあったのですが、報道機関の方のお話を聞いてそういう捉え方だけではないと分かり、今は難しい気持ちになっています。

吉田江理子委員

- ・ 最終的に散らかしたのをどっちが片付けるのかと想像してしまいました。
昔ながらの女性のおおらかさ、とそのまま読んでいいのか、それは今の時代に合っていないのではないかと考えさせられる部分があります。

高荒由幾委員

- ・ 報道機関の方々からの性別役割分担等に関する視点と、それからこれを審議会、あ

るいは知事が推奨することの意味というのは、ちょっと考えなくてはいけないと反省したところです。

子どもたちへの刷り込みを考えると、吉田委員が仰ったように、「女性はおおらかで旦那さんを許して、後は仲良くやればいい」というメッセージが伝わってしまうと危惧されて、そこを誰が補うんだろう、補足するんだろうっていうと、恐らく家庭ではできない。そこを、男女共同参画を推進している県としてどう考えるかっていう視点は、私自身も欠けていたと反省しています。

佐藤達哉委員

- ・ 難しく考えないで、昔からこういうお話があったと素直な気持ちで子どもたちに教えれば良いのではないかと個人的には考えます。

酒巻祐亮委員

- ・ この本を読んだときに、男女のことについて、思うことは正直ありませんでした。私は妻の両親と住んでいて、義父が食事担当、私は洗濯をやるとか、家事の分担がされていて、それが当たり前の生活だったので、特にこの本を読んで男女がどうこうということ考えたことはありませんでした。
- ・ 他の委員の話聞いて、なるほどと思った部分もありますが、私はなんてポジティブなんだろうと素直に感じました。

國岡美和委員

- ・ 最初読んだときに、この本は今の時代に合っているのかなというのは感じました。私の娘夫婦も旦那さんが食事を作ったりすることが当たり前で過ごしています。私たちの時代と今の時代は違うと感じています。
- ・ ただ、これは昔話ですので、私もそのお仕事を交換してどうなったかとか、旦那さんがすごく前向きで明るく、お互いに助け合いながら生活をしているという話なのだと思います。

阿部泰宏委員

- ・ 女性に対するミソジニー的な価値観というのは昔からあって、それは今どうなのかということジェンダー的な議論で言われています。
- ・ そういう観点で読むと、ある意味風刺的に描いていて面白いなと思って読みましたが、確かに先程、吉田委員が言われたように、この後でどっちがこれを片づけるといところも含めて女性の読者の視点で語られると、ぐうの音も出ないなと思いました。
- ・ もうちょっと深く考えてこれは読まないはずなのかと。子どもの段階でそういう時代なんだということをしっかり伝えなくてはいけない時代に来てるのは間違いないので、推奨するという積極的なことではなく、保留しておいたほうがよいのではないかと考えを改めました。

渡部純委員

- ・ 本を読んだの解釈はそれぞれ自由なので、この本を通していろんな解釈があるというところまで補完できるのであれば推奨でも良いと思いますが、積極的に薦めるかどうかというところです。

議長

- ・ 確かに推奨、非推奨と白黒付けるのは難しく、今回出席いただいた委員の中でも、これだけ意見が分かれています。
- ・ 議長という役割を仰せつかっている立場ですので、皆様の意見をお伺いしたいと思います。積極的な推奨というかたちではなく、推奨まではしないという御意見の方、挙手をお願いします。

<議長を除いた出席議員9名全員が挙手>

- ・ それでは、「くよくよしてもしかたがない！」については、非推奨といたします。

○「待ってろ！甲子園～青鳥特別支援学校ベースボール部の挑戦～」

議長

- ・ 次に「待ってろ！甲子園～青鳥特別支援学校ベースボール部の挑戦～」について、御意見いただきたいと思います。

高荒由幾委員

- ・ ポプラ社のホームページでこの本の編集後記が載っており、指導者である先生が指導している特支チームをほかのチームと並列で扱う言葉を使っていて「特別支援学校に通っているチームだから弱いんだ」とかではなく、「単純に実力がない」とか、「まだまだ成長途上だから」といった言葉遣いをされて指導しているところがとても編集者の心に残ったと書かれていました。感動物語で推奨としていますが、そこが本で書かれていなかったことが、残念なところでした。

酒巻祐亮委員

- ・ 教育の現場で実際に生徒を教え、指導していかなければいけないときに、教える側がきちっと情熱を持ってやらないと子どもたちには伝わらないというところもあり、とても考えさせられるところがありました。本を読んで、もう一度勉強し直そうという感想を持ちました。

議長

- ・ 私も普段、学生を見ている立場で、小中高で成功体験が少なく、前向きに行動できない学生がいます。

そういう中で、これだけ情熱を傾けられる先生がいることに驚きながら読ませていただきました。内容に関しても、見る学年によって受け取り方が違うだろうと感じました。

- ・ それでは、「待ってろ！甲子園～青鳥特別支援学校ベースボール部の挑戦～」については、書評から出席委員の全員が推奨相当としていることから推奨としてよろしいでしょうか。

<異議なし>

- ・ それでは、「待ってろ！甲子園～青鳥特別支援学校ベースボール部の挑戦～」については、推奨といたします。
- ・ 続いて推奨対象についてですが、出席委員の書評を参考とすれば、推奨対象は「小学生の高学年、中学生」となりますが、酒巻委員の意見や書籍の内容から「高校生」も加えた対象としてはいかがでしょうか。

<異議なし>

- ・ 御異議がないようですので、推奨対象を「小学生の高学年、中学生、高校生」といたします。

○「いつか、あの博物館で。アンドロイドと不気味の谷」

議長

- ・ 次に「いつか、あの博物館で。アンドロイドと不気味の谷」について、御意見いただきたいと思えます。
非推奨の意見でした酒巻委員いかがでしょうか。

酒巻祐亮委員

- ・ この本を読んで、思春期のそれぞれの人物の成長だったり、思春期の色々な経験だったりというところとなるほどと思う部分もありますが、今の生徒がこういう風に未来を描けるかと思うと、その未来のイメージができませんでした。
内容も個人的にはちょっと重いという部分があり、全てのこどもたちが同じように思えるかと考えた時に、どうしてもみんながこういうふうには思わないようなところもありました。
- ・ 内容的には、どちらかというところ大人が読んだほうがいいのか、というところもあり、非推奨で出させていただきます。

渡部純委員

- ・ 著者の作品をインターネットで調べたところ、中学入試の国語によく採用されてい

るようです。ただ、酒巻委員の意見を聞いて、大人が読んでも色々と考えさせられる作品だということに気付かされました。

- ・ 私の長男にも読ませてみて、なかなか思春期なので親との会話もそれなりで、面白かったくらいで具体的な感想まで聞いていないですけども、息子にも推奨してみました。著者の最新作で「普通の子」といういじめ問題を扱っている作品がありますが、その作品に比べて「いつか、あの博物館で。」はそこまで重い内容ではなかった読後感ではありました。

高荒由幾委員

- ・ 私はすごく悩んで推奨にしたんですけども、こういう生活があるんだとか、こういうことに悩む同世代の子どもがいることを知ることって大事だと思いました。
- ・ 等身大の中学生が悩んで青春小説として明るい感じで終わり、希望を持たせる内容なので推奨とさせていただきます。

酒巻祐亮委員

- ・ 委員の皆様の意見を聞いて、現場の生徒とのイメージのギャップで非推奨としましたが、何回も何回も読むと考え方が変わってくるのではと思いました。

議長

- ・ 意見も出尽くしたところで、それでは、「いつか、あの博物館で。アンドロイドと不気味の谷」については、書評から出席委員の多数が推奨相当としていることから推奨としてよろしいでしょうか。

<異議なし>

- ・ それでは、「いつか、あの博物館で。アンドロイドと不気味の谷」については、推奨といたします。
- ・ 続いて推奨対象についてですが、出席委員の書評を参考として、推奨対象は「中学生」としてはいかがでしょうか。

<異議なし>

- ・ 御異議がないようですので、推奨対象を「中学生」といたします。
- ・ これで、青少年の健全な育成を図る上で有益な書籍の推奨についての審議を終了します。

4 閉会（11時53分）

以上の議事の顛末を記録し、これを証するため、指名を受けた両委員が署名捺印する。

令和7年 2月 3日

署名委員

國岡美和



令和7年 2月 7日

署名委員

七海 圭子

